

豊明市行政評価制度 「事務事業」評価票

1 事務事業の概要

1-1 事務事業の名称	図書館のリフォーム事業							
1-2 担当	部	教育部	課 又は施設	図書館	係	図書係	評価票作成者	図書担当係長 柴田 初美
1-3 総合計画における施策の体系	①節	教育文化 「個性ある文化と豊かな人間性を育むまちづくり」			③基本施策	図書館	コード	4-1-4
					④単位施策(中)	施設の充実	コード	4-1-4-1
	②項	生涯学習の推進			⑤単位施策(小)	施設のリフォーム	コード	4-1-4-1-2
1-4 事務事業の目的の精査	対象と対象の数	図書館利用者		意図(対象を事務事業によってどのような状態にするのか)	図書館利用者が安心して施設利用できるようにする。			
1-5 事務事業の内容	図書館施設(館内・館外)を整備することにより、利用者が快適に安心して利用できる環境を提供する。							

2 事務事業実施の状況

2-1 事務事業の実施における基本認識	事務事業実施にあたって心がけた改善の取組み		社会状況等の事務事業がおかれる環境把握	市民ニーズの認識
	平成18年度	館内にあった喫煙場所を屋外に設置した。		公共施設については、全面的に禁煙状態である。
平成19年度	授乳室に充てる部屋を整備した。		授乳スペースがある公共施設が多くなってきた。	プライバシーが守られ落ち着いて授乳できるスペースが求められている。
平成20年度	利用しやすいよう駐車場を整備した。		広域貸出や行事の増加等により車での来館者が多く駐車場でトラブルが発生しやすい状況である。	マナーが守られ、気持ちよく利用できる駐車場が求められている。
平成21年度	利用しやすいように男子用トイレを一部改修した。		気持ちよく使えるトイレ空間が求められている。	清潔で、気持ちよく利用できるトイレが求められている。
平成22年度	様々な方が安全に利用できるよう、利用者用階段に手すりを取り付けた。			
平成23年度	特別閲覧室の学習机に仕切り板を取り付けることにより、利用者が落ち着いて学習できるように配慮した。			
平成24年度	図書館外壁タイルのひび割れ及び剥落の補修を行った。			
平成25年度				
平成26年度				
平成27年度				

2-2 総合計画における単位施策成果指標	事務事業成果指標名			前期目標値(単位)	後期目標値(単位)	指標の説明					
	施設のリフォーム				2(件)	4(件)	快適な図書館空間の整備を進める指標 前期 喫煙室・授乳室 後期 おはなしの部屋・その他				

2-3 成果指標に係る活動実績とコストの推移(アウトプット分析)	活動実績 a (単位) 直接事業費 b (千円) 人件費 c (千円) 合計コスト d (b+c) (千円) 単位コスト d/a (千円)	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
		1件あたり 601	1(件)	1(件)	1(件)	1(件)	1(件)	1(件)	1(件)		
	598	69	242	129	165	145	473				
	3	3	6	6	6	6	6				
	601	72	248	135	171	151	479				
	1件あたり 601	1件あたり 72	1件あたり 248	1件あたり 135	1件あたり 171	1件あたり 151	1件あたり 479				

アウトプット実績(活動数値)の補足説明 → 人件費は、担当の立会確認の関わりから、1人分の人件費2時間分として算定した。 c = 3,000円×2時間

2-4 成果指標に対応する実績と達成度の推移	指標対応実績(件)	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
		後期目標値に対する達成度(%)	1	2	3	4	5	6	7		
		25.0	50.0	75.0	100.0	125.0	150.0	175.0			

3 事務事業の自己評価結果

3-1 評価結果(アウトカム自己分析)	単年度担当課評価	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
		A	A	A	A	A	A	A			

- 4段階評価結果
- A : 上位目的である施策に貢献しているので継続する
 - B : 事務事業の実施手法や環境(予算的・人的)に改善が必要
 - C : 縮小等、事務事業としての見直しが必要
 - D : 事務事業の廃止が相当

- 判断の基準
- ①必要性(必要な事務事業であるか)
 - ②公共性(公が実施する意味があるか)
 - ③妥当性(ニーズに対して投入が適正か)
 - ④効率性(結果に至る活動に無駄はないか)
 - ⑤有効性(活動の結果が上位の目的に貢献しているか)
 - ⑥市民満足度(事務事業が対象にしている市民を満足させているか)

3-2 評価の内容		今後の環境変化を踏まえた課題認識	次年度に向けて改善する取組み	事務事業の担当課としての単年度の取り組みの自己評価
		平成18年度	限られたスペースで設計しなければならない。	授乳室の要望があるため、設置場所やその設計。
平成19年度	安心して利用できる施設が望まれる。	おはなしの部屋が安全性に欠けるため改修が必要。	2階和室を整備して臨時の授乳室に充て、落ち着いて授乳できるスペースを確保した。	
平成20年度	〃	〃	駐車スペースの明確化や案内看板の取り付け等、利用者にとって使いやすいよう駐車場を整備した。	
平成21年度	〃	〃	排水管や手洗いの蛇口の取り換え等により、男子用トイレが使いやすくなった。	
平成22年度	一応、後期目標値は達成したが、今後もより利用しやすい安全な施設を目指していく。			
平成23年度	今後も、より利用しやすい施設を目指し、環境整備をしていく。			
平成24年度	今後も、利用しやすい施設を目指して環境整備をしていく。			
平成25年度				
平成26年度				
平成27年度				

4 事務事業の総合評価結果

4-1 総合評価の結果		結果	審査会による改善方向の指示
		平成18年度	A
平成19年度	A	継続して事業を進めること。	
平成20年度	A	継続して事業を進めること。	
平成21年度	A	継続して事業を進めること。	
平成22年度	A	継続して事業を進めること。	
平成23年度	A	継続して事業を進めること。	
平成24年度	A	継続して事業を進めること。	
平成25年度			
平成26年度			
平成27年度			